編　集　後　記

昨年度,「私の考える医療福祉」というテーマで小論文の募集がありました。実は，自分の中で温めていた考えがあったのですが，結局応募できずに終わりました。

社会心理学者の山岸俊男氏は，著作の中で,「分かる」ことには,「理解する」ことと「説明する」ことの２種類のものがあるが,「理解」と「説明」とは違う。「理解」は共感することによって成り立つものであり,「説明」はある現象を生み出す因果関係が分かった時に使われるものであると述べています。例えば，熱を出した子どもを病院に連れてきた母親は，子どもがつらそうにしているのを「理解」していますが，何が原因で熱が出ているのかは分かりません。一方, 子どもを診察した医師は, 子どもの熱の原因がウィルスであることを「説明」することができます。この２種類の「分かる」から「医療福祉」を考えられないだろうかと思ったのです。

創設者である川崎祐宣先生は「医療と福祉は一体でなければならない」と主張されました。それは, 患者（あるいは児童･障害者･高齢者など）を取り巻く現実の生活（世界）では，医療も福祉も渾然一体となっており，決して患者の中では別々のものではないという, 患者のつらさや苦しみに共感するという「理解」が前提となっていたのではないかと解釈できます。一方,「説明」するものとしては,「医学モデル」と「社会モデル」（福祉のモデル）があり, 両方のモデルから「分かる」ことの重要性が主張されてきました。ただし, よりよい「説明」のためには，両方のモデルの統合・融合の可能性を探っていくことも求められるかもしれません。

「医療福祉」を「分かる」ためには,「理解」と「説明」の２つが必要ではないでしょうか。患者（あるいは児童･障害者･高齢者など）のおかれている生活（世界）を「理解」しようと努めること，そして科学的に「説明」すること,「医療福祉」は，まさにそうした実践や知的な営みを通じて発展していくのだと考えています。

今年，４月に本誌の副編集委員長を拝命し，責務を果たせるかどうか最初は非常に不安でした。しかし，編集委員長の彦坂和雄先生をはじめ，事務局の方々，そして皆様のおかげで，何とか務めることができました。まだまだ未熟ですが，責務を果たせるよう一層努力したいと思います。今後ともより多くの論文が掲載されるよう，皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

編集委員　　田　並　尚　恵

川崎医療福祉学会誌

平成 25 年 7 月 25 日発行

発行者　椿　原　彰　夫

発行所　川　崎　医　療　福　祉　学　会
〒 701-0193　倉敷市松島 288

印刷者　中　塚　浩　三

印刷所　山陽印刷株式会社
〒 701-1133　岡山市北区富吉 3098-1

連絡先　川崎医療福祉大学　中央教員秘書室
〒 701-0193　倉敷市松島 288
TEL　086-462-1111　内線 54095
086-464-1010　（直通）
FAX　086-463-3508